

都道府県名	青森県	授与年度	平成 15 年度
学校種	高等学校	担当する教科等	看護
教授内容	基礎看護学、成人看護学、臨床実習		
教諭の前職等	看護専門学校の看護教員	年齢	52 歳
内 容	<p>対象学年 1・2・3学年</p> <p>授業時間数（週コマ数） 基礎看護学（2時間） 成人看護学（3時間） 臨床実習（18時間） 合計 23時間</p> <p>1. 授与・採用経緯等</p> <p>従来の衛生看護科を廃止し、平成14年度から5年一貫教育による看護師育成を行うために看護科を設け、今後は国家試験合格に向けて教育内容の一層の充実を図る必要がある。そのような状況の中で、長い間看護専門学校において培った、教科担当のみならず教務・実習調整の豊富な経験をもっている方を登用したいため、特別免許状の授与を受け、採用している。</p> <p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <p>1年生 基礎看護学（基本技術）</p> <p>「看護技術とは何か」（序論）並びに、コミュニケーション・安全・安楽・バイタルサインの意義を理解させ、その技術を修得できるように教授する。</p> <p>教材として、教科書・ビデオテープ・プリントなどを使用。実技については、教授者のデモンストレーションや学内実習を行っている。</p> <p>2年生 成人看護総論</p> <p>成人看護の意義、成人期の発達と役割、健康と病気、成人患者の援助と支援、患者・家族の教育的役割、継続看護、法的・倫理的問題を教授している。</p> <p>教材としての教科書、「厚生指針」よりの抜粋資料。指導形態としてグループワークを取り入れて教授している。</p> <p>3年生 成人・老年看護実習の指導</p> <p>基本的ニーズの理解、日常生活の援助の指導。</p> <p>教材として、専門図書、ビデオテープを使用し、個別指導を実施している。</p> <p>3. 効果・課題</p> <p>1年生は入学して間もなく講義が開始されたので、看護について難しくならないように、嫌にならないように注意した。事例をあげイメージを膨らませるようにした。課題としては、ビデオテープの補充や、実技の練習時間の少なさを補う指導法の工夫などがあげられる。</p> <p>2年生は成人期の特徴や健康、近年の保健の動向などに興味を持ち看護につなげてほしいと考えているが、難しい表現をイメージ化できないことが多い。今後の課題としては、教科書の選定やビデオテープの補充なども考えていきたい。</p> <p>4. その他</p> <p>担任との連携に関しては、気になる生徒についての情報交換をしたり、生徒指導を一緒にするなどして対応している。</p>		

都道府県名	千葉県	授与年度	平成 15 年度
学校種	高等学校	担当する教科等	看護
教授内容	基礎看護技術、臨床実習等		
教諭の前職等	看護師、臨任実習助手	年齢	36 歳
内 容	<p>対象学年 第1, 2, 3学年 授業時間数(週コマ数) 15時間</p>		
	<p>1 授与・採用経緯等</p> <p>当该校では、平成14年度から5年一貫教育の衛生看護科・専攻科がスタートし、教諭、講師、実習助手の緊急かつ大幅な増員が必要となった。特に病院・施設での臨地実習では、現場での臨床経験豊富な教員の補充が喫緊の課題となった。当該高校を管轄する市町村教育委員会では、看護科教員採用試験を実施したが、看護の教員免許状を持った受験者はいなかった。当該市町村教育委員会より、看護師としての豊富な臨床経験と、臨任実習助手としての経験があり、人物・識見共に優秀であるとの推薦があり、特別免許状審査会にて意見聴取の上、教育職員検定にて合格を決定し、授与した。</p>		
	<p>2 具体的教授内容・活動実績</p> <p>1年では、基礎看護技術(日常生活援助技術)のチーフとして講義及び実技指導及びTTの連絡調整を行っている。2年では、臨床実習のチーフとして、前期の福祉施設での老人看護臨床実習と後期の病院での基礎看護臨床実習の企画、各施設(4病院)の取りまとめ、職員への連絡・調整、生徒への指導、学校への報告等を行っている。3年ではテーマ研究(看護に関する調べ学習)指導で、生徒を6名担当し指導している。1年・2年・3年の看護臨床実習では、平成16年度は6週間にわたって病院への引率指導及び、引率する実習施設への事前打ち合わせや連絡調整を行っている。</p> <p>その他、学年所属については、2学年の副担任として普通科の生徒へも意欲的に進路指導や生活指導を行っている。同時に、生徒の健康管理の側面からの活躍も評価されている。</p>		
	<p>3 効果・課題</p> <p>老人看護学臨床実習では、長年の臨床での経験により身につけた老人看護の知識・技術の深さ・確かさと落ち着いた実直な人柄をいかして、保健・医療・福祉を統合した視点で、社会資源を広く活用した具体的な指導を行っている。その結果、生徒は臨床実習でしか学べない知識を深め、座学で学んだ内容の意味づけを確実に行うことができている。また、実習中の困難や課題に対して悩む生徒も当該教諭により温かく根気強く支えられ、臨床実習を有意義なものとし経験と知識を深められた。</p> <p>課題としては、初めから授業も臨床実習引率指導も単独で実施することは困難であるため、初任の教員を指導する教員をつけての引率指導となる。そのため、教育実習や研究授業の経験を積んでいる教員に比べ、他の教員の負担が一時的に大きくなる。</p>		
	<p>4 その他</p> <p>本人にいかに意欲があり、能力がいかに高くても、日々の教育実践は忙しい中行われており、自主的に課題解決を行いながら教育活動に携わっている状態である。そうした活動の中で、生徒指導に悩んだり、指導案作成や授業研究に行き詰ったりすることも多い。そのため、特別選考(教育経験なしの、看護職から教育職への登用)ならではの研修体制が必要である。</p>		

都道府県名	新潟県	授与年度	平成 16 年度
学校種	高等学校	担当する教科等	基礎医学・基礎看護
教授内容	基礎看護・リハビリテーション看護 ・感染と免疫 ・解剖と生理		
教諭の前職等	県立病院看護師長	年齢	53 歳
内 容	<p>対象学年 1学年・2学年・3学年</p> <p>授業時間数（週コマ数）</p> <p>授業 週4時間（週コマ数不均等）</p> <p>看護臨床実習 1日引率（7コマ相当）</p> <p>校内実習 1時間</p>		
	<p>1. 授与・採用経緯等</p> <p>当该校は平成17年度から衛生看護専攻科を開設する予定であるが、看護科教諭4名中3名が平成16年度末に退職予定であり、看護についての専門的知識と技能を有する人物に職務の引継を確実にを行う必要が求められた。</p> <p>当人は県立病院での看護師経験が長く看護師長の経験も有する。また、看護学校看護科での勤務経験もあり、人物、識見ともに校長から高い評価を得ている。</p> <p>特別免許状授与に係る教育職員検定において、校長から提出された実務、人物証明書を参考に6名の委員から構成される検定審査会を開催した。その結果、専門知識や技能を十分に有し、特別免許状を授与するに足る者と判断し、平成16年4月1日付けで免許状の検定授与を行った。</p> <p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <p>基礎看護（診療と看護）1単位、成人・老人（リハビリテーション看護）1単位、感染と免疫1単位、解剖生理1単位の授業を担当し、視聴覚教材を工夫しながら日々の授業の充実に努めている。</p> <p>また、校内基礎看護技術実習指導、臨床実習指導など、具体的な実習学習を通して看護技能の向上に向けた実践的指導にあたっている。</p> <p>なお、校内分掌として、3学年副任、保健環境部、部活動華道部に所属し、生徒の教育相談にあたるなど、生徒指導の充実にも寄与している。</p> <p>3. 効果・課題</p> <p>近年の医療環境の変化や要求される事柄を実践的に指導できる点で効果が見られる。</p> <p>今後の課題としては、基礎医学の学習の一層の充実を図るために必要な専門的知識を十分に身に付けるための研修に励む必要がある。また、生徒の学力の実態をしっかりと踏まえ、効果的な指導の在り方を研究していく必要もある。</p> <p>4. その他</p> <p>特になし</p>		

都道府県名	山口県	授与年度	平成 16 度
学校種	高等学校	担当する教科等	看護
教授内容	母性看護学・臨地実習		
教諭の前職等	総合病院(助産師)・看護専門学校(専任教員)・高等学校助教諭	年齢	40 歳
内 容	<p>対象学年 衛生看護専攻科1年, 2年 授業時間数(週コマ数) 8時間</p> <p>1. 授与・採用経緯等</p> <p>当該私立高等学校衛生看護科は、昭和41年に創設し現在39年目を迎え卒業生も2,000名を超えている。生徒・保護者をはじめ地域の医療施設の強い要請もあり、看護師国家資格の取得を目指す専攻科を平成12年度に開設した。</p> <p>当該教員は、看護師、助産師の資格を持ち総合病院で助産師として8年間、看護専門学校の専任教員として4年間の実務経験を持つ。さらに、平成13年から当該高等学校の助教諭として勤務している。病院での豊富な臨床経験と看護の専門的な知識や技能を生かし看護教育の充実を図るため、当該学校法人理事長からの推薦により特別免許状の出願がなされた。</p> <p>教育職員検定では、学識経験者3名による特別免許状検定諮問委員の意見を尊重し慎重に審査した結果、適当と判断し特別免許状を授与した。</p>		
	<p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <p>衛生看護専攻科において専門分野の「母性看護学」・「臨地実習」を担当している。病院現場や他の看護学校での豊富な臨床・教育経験を生かして望ましい看護観や職業の育成につながる授業を行っている。</p> <p>また、看護臨地実習では、助産師としての知識や技能を指導に十分に生かし学習効果を高め、生徒が主体的に看護実践能力を習得できるよう熱心に指導している。</p> <p>3. 効果・課題</p> <p>助産師としての豊富な実務経験を生かし、看護の実践的な指導が可能となった。また、看護の役割についてより具体的な授業を展開することで生徒の理解が深まり、効果的な指導が行えるようになった。</p> <p>さらに、看護師を目指す生徒に対し、豊富な臨床経験を持つ教師の指導は、生徒の学習意欲を喚起し目的意識を持った学習につながっている。</p> <p>4. その他</p> <p>特記事項なし</p>		

都道府県名	高知県	授与年度	平成 15 年度
学校種	高等学校	担当する教科等	看護
教授内容	基礎看護、成人看護、看護臨床実習等		
教諭の前職等	県立病院看護師、県立総合看護専門学校 学校教員、県立学校講師	年齢	42 歳

内 容	<p>対象学年 1～3 学年</p> <p>授業時間数（週コマ数） 前期 13 時間 後期 14 時間</p>
	<p>1. 授与・採用経緯等</p> <p>平成 17 年度に看護専攻科を開設予定の高等学校があり、5 年一貫教育を通して、看護師の国家試験受験資格を取得させるために、より高度な専門知識と技能を有する看護科教員を採用する必要性が生じ、教員採用候補者選考審査において公募を行ったが、適任者を確保することができなかった。（受審者は 1 名、名簿登載者なし。）</p> <p>近年の選考審査における「看護」の受審状況からも、看護の教員免許状保有者の絶対数は稀少であるうえに、なおかつ教員としての適格性を有する人材の確保は非常に困難であった。</p> <p>以上の経緯から、平成 15 年度末に特別選考を実施し、特別免許状の授与及び平成 16 年 4 月からの任用に至った。</p>
	<p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <p>看護の基礎（総合学科 3 年）</p> <p>基礎看護、成人看護、疾病の成り立ちと回復の過程（看護科 3 年）</p> <p>看護臨床実習（看護科 1・2 年）</p>
	<p>3. 効果・課題（指導効果、授業を実施した際の課題等）</p> <p>病院での実例を挙げながら、自らの実践を踏まえた説得力のある指導がなされ、生徒への浸透力も深いものがある。十分な教材研究がなされ、難解な内容もわかりやすく説明し、生徒の理解を深めることができている。</p>
	<p>4. その他（今後の見通し、全体の補足、担任との連携の様子等）</p> <p>任された以上の仕事を責任を持って果たし、なくてはならない人材となっている。初任者研修でさらに資質を向上させることによって、看護科教育に大きく貢献してくれると思われる。ホームルーム担任と十分連携をとり、ホームルーム指導にも積極的に関わり、生徒とのコミュニケーションを深めている。</p>

都道府県名	熊本県	授与年度	平成 16 年度
学校種	高等学校	担当する教科等	看護
教授内容	医学一般、基礎看護学Ⅰ、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ		
教諭の前職等	医師会附属看護専門学校講師	年齢	33 歳
内 容	<p>対象学年 看護専攻科 1・2 年、福祉科 1 年</p> <p>授業時間数（週コマ数）</p> <p>18</p> <p>1. 授与・採用経緯等</p> <p>医療現場で 7 年間実務経験をした後、看護専門学校講師として勤務し、その後本校に採用され、すでに 2 年間担任教諭として学生の指導に当たっている。生徒に対しては優しく穏やかに接しているが、指導方法には毅然としたところがあり説得力がある。また、管理職や先輩職員の助言にも素直に耳を傾けて、自己の成長の糧と考えられるものはできるだけ積極的に取り入れていこうという姿勢が窺われる。また自己の言動に常に責任を持っており、校務分掌も迅速・的確に遂行している。このように、社会人としての実務経験、本校での勤務態度、教員としての適性のいずれの面からみても特別免許状の授与条件は十分に満たしているものと考え、授与を申請した。</p>		
	<p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業 <ul style="list-style-type: none"> ・医学一般…医学の基礎知識、リハビリテーション医療の基礎知識 ・基礎看護学Ⅰ…看護全般の概念理解、看護の本質・位置付け・役割の理解 ・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ…看護実践の基礎、日常生活援助、看護過程演習 ・校内実習指導 <ul style="list-style-type: none"> ・校内実習室におけるモデル人形・医療ベッド・洗髪器・注射器等での指導 ・臨地実習指導 <ul style="list-style-type: none"> ・実習病院巡回による生徒の臨床実習の技術指導、記録指導 ・学級担任として、生徒の学習、生活、進路指導に意欲的に取り組んでおり、授業および実習指導の両面で生徒の学力向上に貢献している。 		
	<p>3. 効果・課題</p> <p>実務経験に基づく生きた看護知識、明解で気品のある語り口、職場での協調性、教材研究に対する情熱、いずれも教育職員としての高い資質をすでに有しており、管理職、同僚からだけでなく、生徒からの信頼も厚い。</p>		
	<p>4. その他</p>		